様式第３号

令和６年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	75	学 校 名	浜松江之島高校	校 長 名	磯部 正之

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標成果目標 （◎100％ ○85％ △70％）	達成状況	評価	成果と課題
ア	**(ｱ)事件や問題行動、トラブルを未然に防ぐ安心な学校づくり**	○挨拶や礼法が実践できている生徒 ◎挨拶や礼法が重要だと生徒に理解させる指導をした教員 ○相談できる先生がいる生徒 ◎生徒が相談しやすい環境作りをした教員 ○学校生活に満足している生徒 ○相手を思いやる言動ができている生徒 ◎SNSに不適切な書き込みをしない生徒 ◎SNSの適切な使用を指導した教員	97.9% 97.2% 83.9% 97.2% 85.3% 94.9% 98.9% 91.7%	A	挨拶は非常によくできており、今後も、生徒、教員という隔たりなく励行していきたい。 生徒が相談しやすい環境作りについては概ね達成できた。来年度は生徒の心理的安全性およびウェルビーイングのさらなる向上へ努めたい。 SNSのトラブルについては、生徒が無自覚のうちに不適切な使用をしていることもあり、全ての教員の一丸となっての指導を継続していくことが必要である。
	(ｲ)事故や病気、怪我を未然に防ぐ安全な学校づくり	◎自転車による加害事故がなかった生徒 ◎自動車等による加害事故や交通違反がなかった教職員 ◎朝食を毎日摂るように心がけている生徒 ◎自らの命を守る行動を意識して防災訓練に参加している生徒 ○地域防災訓練に参加した生徒	96.8% 97.4% 81.8% 69.0% 33.6%	B	生徒、職員ともに大きな事故がなく1年を過ごすことができた。しかし、自転車の走行については問題点も多いため、さらなる注意喚起が必要である 朝食を摂らない生徒が少なからずいるため、来年度は、朝食摂取について保健委員を中心に呼びかけを行っていきたい。 校内の避難訓練は以前よりスムーズに避難できるようになったが、地域防災訓練への参加率が少ないので、意識面での啓発が必要である。
	(ｳ)環境整備等による安心・安全な学校づくり	◎ごみの持ち帰りを行った生徒・教職員 ○整理整頓を心掛けている生徒・教職員 ○学習環境が整っていると感じた生徒 ◎定期的な安全点検を実施した教職員 △図書館を利用した生徒 △進路学習室での勉学に満足している生徒	95.6% 88.2% 80.5% 74.4% 45.1% 70.4%	B	ごみの持ち帰りの習慣は、生徒、職員ともに概ね定着している。 安全点検については、年2回程度の部室点検、職員安全衛生委員による月１回の校内安全点検を実施している。 生徒の学習環境について、問題点にその都度対応し、主体的に学習に取り組める環境整備を行っていきたい。

様式第３号

イ	(ｱ)知性を育む基礎学力の定着	○基礎学力が身に付いた生徒 ◎生徒の基礎学力が向上したと感じる教員 ○自らの学習する意欲が高まった生徒 ◎生徒の学習意欲が高まったと感じる教員	86.7% 66.7% 69.0% 52.8%	C	追試や特別学習指導を設定し、最後まで頑張らせる環境を準備して指導したが、基礎学力と学習意欲の向上は課題である。
	(ｲ)知性や表現力の向上につながる授業実践	○ICT等を活用して工夫した授業が行われていると感じた生徒 ○ICT等を活用した授業改善を実施した教員 ○授業力向上に関する研修に参加した教員 ◎1日に平均1時間以上演奏した生徒 ◎4月に比べ美術の能力が向上した生徒	82.1% 88.9% 61.1% 88.9% 96.3%	B	ICT活用は普及してきている。さらに充実した授業となるよう、授業改善を進めていきたい。 芸術科の学習においても、日々の取り組みにより表現力が向上してきている。
	(ｳ)知性の定着を意識した観点別評価の改善	○観点別評価が実施されたと感じる生徒 ◎3観点を育てる教科指導を実践した教員 ○観点別評価の改善を意識している教員 △観点別評価に関する研修に参加した教員	87.4% 86.1% 97.2% 33.3%	B	それぞれの教員が、3観点の育成を意識した授業実践を行うとともに、評価方法についても検討を重ねながら改善を進めている。
ウ	(ｱ)３年間を通したキャリア教育の実践	○進路指導に満足している生徒 ○進路実現に向けて自ら行動している生徒 ○進学・就職説明会が役に立ったと感じた生徒	90.1% 79.1% 91.7%	A	学年ごとに必要な情報提供ができ、学年が進むにつれて進路意識が高まっていった。3年生は、進路実現に向けて、生徒が家庭と連携し主体的に行動することができた。
	(ｲ)自己実現を目指す探究活動の体系化と実践	○よりよい生き方について考えた生徒 ◎探究活動の目的を共有した生徒・教員 △探究活動の充実に取り組んだ教員	95.5% 82.6% 63.9%	B	探究活動については、学年全体で目的を共有しながら進め、生徒によりよい生き方について考えさせることができた。 来年度の探究活動の増単に向け、より充実した体系化が課題である。
エ	(ｱ)基本的生活習慣の確立	◎欠席・遅刻をなくすように心がけた生徒 ○始業時間や提出期限を守っている生徒 ○身だしなみやマナーを守っている生徒 ○朝読書の時間に落ち着いて本を読んでいる生徒	87.4% 91.3% 97.0% 94.7%	B	全体的には落ち着いて学校生活を送っている生徒が多いが、一部に欠席・遅刻や行動面で問題を抱える生徒もいる。 基本的生活習慣の確立にむけ、今後も毎日の指導を継続的に実施していきたい。

様式第３号

	(ｲ)特別活動を通した主体性の育成	○学校生活や学校行事に主体的に取り組んでいる生徒 △部活動に積極的に取り組んでいる生徒 ○生徒の自己理解が深まるような働きかけをした教員 ○生徒が自己目標を設定し、目標達成のために行動できるような工夫をした教員	94.5% 80.5% 91.7% 77.8%	A	文化祭や体育大会、球技大会、保育介護体験実習などの学校行事に積極的に参加する生徒が多く見られた。特に文化祭では、生徒自ら提案ができ、それを実行しようとする姿勢が見られた。 コロナ禍で縮小されていた活動を再度盛り上げるために、多くの生徒、教職員が尽力した。
オ	(ｱ)学校間連携及び共生・共育の推進	△特別支援学校や中学校とのボランティア活動や共同活動等に関心が高まった生徒 △共生・共育について理解を深めた教員 ○地域との連携を目指した活動を通して貴重な経験をすることができたと感じた生徒	59.1% 55.6% 100%	C	学校間連携や地域連携を体験できた生徒が限定されていた。 芸術科美術専攻では、馬込川護岸壁水門文字表示や鴨江地区ゴミ標識のデザイン、1学年では保育介護体験実習において連携を体験できた。 2年後の特別支援学校分校設置に向け、連携の準備を進めている。
	(ｲ)学校の魅力発信	○学校HPやインスタグラム等で生徒の様子や学校の情報を発信した教職員 ○本校への興味・関心が高まった中学生	35.9% 94.9%	C	発信数はまだまだ少ないので、手軽になった新しい学校HPのもと積極的に情報発信したい。 芸術科や部活動においては、授業や制作への取り組み、活動情報、展覧会案内等をインスタグラムにより発信した。
カ	**(ｱ)業務改善にもつながる教育課程の変更**	△生徒の実態に合わせた案を意識した教員 △受け持ち科目の縮減を意識した教員 △部活動の在り方を考えた教員	88.9% 44.4% 69.4%	C	時間割段階での授業時数の最小化を行い、新教育課程についても検討を進めた。 また、学級減に伴う教員数の減少を勘案し部活動の統廃合の検討し、実行した。
	(ｲ)ヒト・モノ・カネの適切な管理	◎不要な超過勤務をなくすことを意識した教職員 ◎部活動ガイドラインが守られていると感じる生徒・教員 ◎常に不祥事根絶を意識している教員 ◎不祥事を起こさなかった教員 ○光熱水費等の経費節減を意識して行動した生徒・教職員 ◎文書受付・配付のメール等の確認を出勤日に1回以上確実に行った教職員 ◎学校経営予算を計画的に正しく執行した教職員	92.3% 87.0% 91.7% 100% 75.1% 87.2% 92.3%	B	特に文化祭前に業務の過重負担が目立ったので、超過勤務の解消に向けて、改善をしていきたい。 部活動ガイドラインについては、完全に守れていない時もあったので、ガイドラインの在り方を含め、現実的な問題解決を引き続き行っていく。 不祥事根絶については、職員が各自で自覚を持って取り組んだ。経費も節減でき、学校経営予算も滞りなく執行できた。